



令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。  
そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。

日本デジタル教科書学会

## ◆ 新年のご挨拶

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

GIGA スクール構想の進展と共に、教育は新たな局面を迎えています。1人1台端末の計画的更新、デジタル学習基盤へのシフト、そしてAI時代における高次の資質・能力育成。

これらは、教育の多様化とデジタル化の重要なステップであります。日本デジタル教科書学会では設立以来、教育分野でのデジタル化を推進し、教育の質の向上に貢献するために活動してまいりました。今後もこの新たな局面に対して、実践・研究の両面から取り組みを進め、教育の情報化を中心とする様々な教育の変化を支えてまいりたいと考えております。

また、令和6年度は、小学校5年生から中学校3年生の外国語・英語において、学習者用デジタル教科書の先行導入が始まります。デジタル教科書・教材の効果的な活用は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する上でなくてはならないものとなります。しかし、より有効な活用方法の検討、大容量の通信を快適に行える環境の整備、視力等の健康面での懸念、教科書検定制度の見直しなど、デジタルの利点を最大限生かしていくために、超えていかなければいけない壁は山積しています。会員の皆様におかれましては、研究会への参加、年次大会での参加・発表、論文誌への投稿などを通して、好事例や課題解決の方策などを蓄積・共有いただきたく思います。

本年の年次大会は、昭和女子大学附属中学校・高等学校を会場に8月24日、25日第13回年次大会（東京大会）として行います。ぜひ、今からスケジュールを押さえていただき、参加及び発表を検討いただければ幸いです。

今年一年が、会員の皆様にとって、新たな学びを拓くための挑戦の年になることを祈念しております。

令和6年1月  
日本デジタル教科書学会  
会長 広瀬 一弥

## ◆ 第13回年次大会（東京大会）のご案内

元日から激震が走った日本列島。全国民がお正月を祝っているまさにその瞬間に、北陸地方に大地震と津波が襲いました。多くの方が、一瞬にして被災されました。震災に遭われた方々に、衷心よりお悔やみ申し上げます。

学校は冬休み期間であったため、学校で児童・生徒が被害に遭うことがなかったことがなによりの救いでした。しかし、現在も被害に遭われた方々の避難所として、学校施設を解放しています。そういったところでは、食糧の確保、寒さに対する備え、プライバシー保護の対策など予想できないような対策がなされていることでしょう。その中でも、被災者の方は最新の情報が必要とされています。震災直後は、ネットワークが繋がりにくくなり、今回の震災でも携帯電話が不通になる事態が発生しました。震災現地では、最新の情報が必要です。また、家族や友達の安否も含め、それらを確認できないとストレスが高まります。

現在の小中学校は、コロナ対策で全校的に強力な校内ネットワーク設備を有しています。タブレット機材なども学校や持ち帰りで家庭に1台以上配備されています。そういった機材や設備は、学校教育で使われるためのものですが、こういった災害時にも活用することが前提で整備されています。ただ、学校関係者や教育委員会関係者が、そういった理解がなければ活用されません。学校が、地域の情報の中心になるよう働きかけていただきたいと思います。このような状況の中ですが、ぜひ北陸地方の先生方の実践を発表してください。

さて、今年度の年次大会は、東京で開催します。昭和女子大学附属中高部の校舎をお借りして8月24日～25日に開催します。渋谷から二駅（徒歩で30分ほど）、三軒茶屋というとても魅力的な街にある昭和女子大学のキャンパスは、都内と思えないほど広大でアカデミックです。そのキャンパス内には、こども園から、初等部、中学校、高等学校、ブリティッシュインターナショナルスクール、米国のテンプル大学も併設されています。女子大学なのでおしゃれなカフェや食堂もキャンパス内にあります。夜もキャンパス内はライトアップされとてもきれいです。キャンパスを一步出れば、夜の三軒茶屋はディープな街の雰囲気になります。まさに大人の空間です。近隣にあるホテルはとても小さく、大きなホテルは渋谷駅周辺にたくさんあります。昨今、インバウンドの影響で、宿泊代が高騰しているため早めの予約が必要です。この地に皆さまをお迎えすることをスタッフ一同、楽しみにお待ちしております。

第13回年次大会事務局長 加藤悦雄

## ◆ 研究会報告：コラボ研究会「自律的に学ぶ学習者の育成を目指して～GIGA環境を生かした『授業研究』」

学習指導要領改訂から3年。コロナ禍、GIGAスクール構想の実現により、これまでの学びの環境が大きく変化した。また、学習指導要領に示された資質・能力の育成を目指す教育課程の

創造と GIGA スクール構想に掲げられた個別最適化され、創造性を育む学びの実現の重要性が指摘されている。一方で、学校現場では新たな状況への対応に追われて、混乱し疲弊している状況が見える。そこでは、自治体間、学校間での格差も顕著になってきた。

そこで、3つの研究集団がコラボし、「令和の日本型学校教育」のめざすところを、再度、共通理解をすることと、現在の1人1台端末環境を生かしての地道な「授業研究」を進めることをねらいに、本研究会を企画した。それぞれの研究集団の運営ノウハウやメンバーの交流を促すことで、これからの学校教育の姿をより明確化し、各学校や地域への普及を図るイメージを共有できればと考え、「自律的に学ぶ学習者の育成を目指して～GIGA 環境を生かした『授業研究』」をテーマに設定した。

放送大学中川一史教授のオープニングトークは、「学びを学習者に委ねる覚悟が本当にあるのか」という参加者の意識を問うようなフレーズで始まり、そのためにはどのような考え方や授業改善をしていくとよいかという示唆に富んだお話であった。それに続く、文部科学省初等中等教育局教科書課の高橋瑞人氏の講演では、「これまでの授業とデジタル教科書活用後の学習者の様子の違い、そこにどのようにデジタル教科書が寄与したのか」、しかし「単にデジタル教科書を活用すれば授業が良くなる訳ではなく、日々の授業改善による」こと、「授業改善には様々な切り口があり、学習者用デジタル教科書の活用はその中の1つである」ことを、具体例をいれてお話をいただいた。

3つのワークショップでは、実際に学習者用デジタル教科書や学習支援ツールの1つであるロイロノートを体験し、どのように活用できるかのイメージをもつことができた。特に、広瀬日本デジタル教科書学会会長を講師にお迎えしたデジタル教科書のワークショップは参加者が多く、ニーズの高さが感じられた。その後、3つの実践発表では、様々な切り口で授業改善を試みた3人の実践者からの授業提案があり、参加者同士でこれまでの授業とその授業の違いがどう見えたのか、ディスカッションを行った。参加者からは「非常に内容の濃い研究会であった」「様々な人と交流ができ、授業のヒントとなった」等々の感想をいただいた。このように、意欲的な実践者や教育関係者が集い、少し先を見通して、授業を創り出す考え方イメージを得ることができた研究会となったことを報告する。

放送大学 佐藤幸江



実践提案にコメントをされる稲田研究委員長

## ◆ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト ([http://js-dt.jp/research\\_support/](http://js-dt.jp/research_support/)) をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

## ◆ 研究会開催助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催支援、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に、研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイトをご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

(本学会サイトトップページ上部の“学会への申請一覧”の“研究会開催助成について”をご覧ください。申請書もこちらからダウンロードして頂くことができます。)

([http://js-dt.jp/seminar\\_support/](http://js-dt.jp/seminar_support/))